

	<h1 style="margin: 0;">生物</h1>	
--	--------------------------------	--

教科	科目名	単位数	学年・コース	教科書名	副教材
理科	生物	5	3年G一貫理系	生物 (第一学習社)	フォトサイエンス生物図録(数研出版) セミナー生物(第一学習社) 別途指示する場合がある。

学習目標	高校1年次での学習を踏まえ、「分子」をキーワードとして生物とはどのような存在なのか分析的・総合的に学習することで、科学的な自然観を身に付ける。
学習の進め方	「教科書を学ぶのではなく、教科書も使って学ぶ」ことを基本方針とする。毎時間しっかりノートを取り、復習に時間をかけること。なお、教科書内容の完了は例年11月上旬頃になる
評価対象・方法	定期試験の評価をベースに、受講態度や実験・実習への貢献の程度やレポート・提出物の状況などを加味して総合的に評価する。
受講に向けての心構えと準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「受験のための授業」というスタンスは取らない(受験準備の為の演習は「生物特講」として別の科目を設置している)が、事実上受講者の多くが上級学校への進学にこの科目を利用する実態から、講義や実験実習のテーマ選定については、これらをおある程度意識する。</li> <li>* どの教科でもそうだが、「難問」が解けることよりも基本～標準的な問題で確実に得点できることが大切である。沢山の問題集に手を出すのではなく、副教材を徹底的に活用されたい。生物の各単元は何らかの形で生物基礎の内容との関連があるので、模試などで自分の弱点の発見に努めよう。</li> </ul>

	学習事項	学習内容	備考
一 学 期	I 生物の系統と進化	生命の起源と生物の変遷について地球科学的な側面からの理解を深める。また、遺伝現象を分子レベルで認識すると共に、分子遺伝学の進歩に伴って社会との接点で生起する諸課題について一定の見識を持てるように理解を深める。	
	中間試験		
	II 生命現象と物質	細胞の成分組成の中でタンパク質が構造面・機能面で果たしている役割について理解すると共に、細胞内での化学変化とこれに伴うエネルギーの流れについて理解を深める。	
期末試験			
二 学 期	III 遺伝情報の発現と発生	生物の生殖と動植物の発生過程と発生をつかさどる遺伝子の機能について理解を深めることで、現代発生生物学の基礎に触れる。	
	IV 生物の環境応答①	神経系の発達と動物の行動の複雑性・多様性の関連について認識すると共に自律神経系と内分泌系の協働について理解を深める。また、植物成長調節物質による植物の生育相の転換との関わりについて詳しく学習する。	
	中間試験		
	IV 生物の環境応答②		
	V 生態と環境	生物と外部環境及び生物種内・種間の相互作用について理解を深めると共に生態系を移動する物質及びエネルギーの収支について理解する。また、生態系と生物多様性との関わり合いを認識し、生態系の保全についての多面的な理解を深める。	
期末試験			